

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 事業所番号 (01729016688), 法人名 ((有)旭川高齢者グループホーム), 事業所名 (グループホームほーぶ旭川), 所在地 (北海道旭川市永山12条2丁目5番1号), 自己評価作成日 (令和2年8月30日), 評価結果市町村受理日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172901688-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年10月7日).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一人として資源回収や町内会の運動会に参加されています。地域内の他グループホームや地域包括支援センターと連携して利用者様の支援に努めています。地域内の勉強会への参加や行方不明者の捜索等を行っています。季節によって冬まつり車窓見学や桜や紅葉の車窓見学を行っています。利用者様と一緒に掃除や茶碗洗いや拭く事を一緒にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は旭川駅から車で20分程の永山地区に平成26年に移転新設し、バスやJRの交通の便に長けた閑静な住宅街で事業展開している。建物の1階に6人、2階は9人の2ユニット、計15人の高齢者が生活を共にする事業所である。建物内は窓からの採光も良く明るい住環境で、居室にはトイレとクローゼットが設置され、プライバシー確保や利用者の自立を助ける設備が整っている。新築移転となり、地域密着型事業所として町内会に加入し、年6回開催の運営推進会議には町内会役員や民生委員の参加を得て、運営状況の報告と共に地域情報の収集を行い、事業所の透明性を図り、地域の理解や交流に繋がる様に取り組んでいる。利用者は、音楽の演奏ボランティアの訪問を受けたり、クリスマスにはボランティアや家族と一緒に歌を唄いケーキやご馳走を食べたり、また散歩や運動に出掛ける等、憩いの時間を楽しみながら過ごしている。年間の行事としてドライブを企画し、旭山公園の桜見物や冬の雪まつり見物等、外気浴の中で利用者に季節を感じてもらい支援に努めている。法人本部も介護保険業務や防災面等でバックアップしており、職員配置に不足が出た場合は、本部職員が業務サポートや職員の相談に乗るなど積極的に関与し、法人と事業所職員が一体となって、利用者の安心感ある地域生活の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Description, Self-evaluation criteria (1-4), and Results. Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日2回の申し送りや連絡ノートへ記入してケアに対する意識のずれがないように話しています	理念は職員の共通理念とし事務所内に掲げ、職員への意識化を図り、来訪者への理解に繋げている。朝、夕の申し送り時や連絡ノートにて情報を共有しながら、理念に沿ったケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており月1回資源回収への協力や町内会の運動会に参加しています	地元町内会に加入し、地域の運動会等の行事や毎月の資源回収に協力し、また散歩時には挨拶を交わし、日常的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在行っておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を概ね2カ月おきに開催して取り組みの報告や意見の交換を行っています。	運営推進会議は2ヶ月毎に定期的開催し、町内会長や民生委員、包括センター、家族の出席で行われ、行事内容や身体拘束委員会や転倒検討委員会の議事内容も公表し、サービスの質向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険担当者やケースワーカーや地域包括支援センターが主催の連絡会へ参加をして情報交換を行っています	行政とは運用上の問題や制度の疑義解釈、法の改正上の注意点等々、不明な点について、いつでも話し合える関係が維持されており、また生活保護課等とも情報交換を進め、信頼性が強く築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族と相談をして同意を得てからミトンの使用やベット柵、センサーマットを使用しています	身体拘束委員会は指針を定め、2ヶ月毎の運営推進会議時に開催している。拘束や抑制のグレーゾーンについて検討し、職員に周知徹底しながら虐待も拘束もない介護を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1日2回の申し送りを通じて防止に努めています。虐待についての対応についてその都度注意しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて成年後見制度について学んでいます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に重要項目事項を説明しています。ご家族が施設を訪ねた際や電話で意見を聞いて運営に反映させています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様家族の方が施設を訪ねた時や電話連絡する際に意見を聞いて反映させています	家族意見の聴取については、毎年外部の評価機関からサービス満足度調査をアンケート方式で行っており、また日頃から傾聴の姿勢で家族に接して、サービスの質向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回の申し送りの他随時意見や提案を聴く機会を設けています	毎日の申し送りやユニットの会議等で職員からの意見や提案は受け入れており、また必要に応じて個人的な面談や相談も行い、広く意見を求めて職員の地位向上やサービスを含め、全体的な質のアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就労環境や条件の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流を通じてこれからのサービス向上に努めていきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	利用者様や家族様と連絡を取りながら本人の困っている事の要望や意見を聞いて安心して過ごせるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来所された時や電話連絡があった時には普段の生活のようすを伝えてニーズを聞きながら信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を把握して経過を記録にまとめて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を行う際に暮らしを一緒に築いていくため声かけやコミュニケーションを大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所や外出、電話を通じて本人との絆を大切にしながら本人を支えていく関係を築いていきます		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所やお店の関係継続に努めています。	家族や友人に手紙で連絡する、電話をかける、訪問して頂く等、馴染みの人との繋がりを取り持つ支援に努めている。思い出の場所や行きつけの店など、車で同行して支援している。家族の協力を得て、墓参りや自宅訪問も実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前のお茶の時間や午後のおやつ等の時間に支え合えるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中も病院へ様子を見に行き家族より経過を聞いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向や希望を聞き、困難な場合は本人本位にできるように支援しています	利用者一人ひとりの毎日の生活を支えながら、嫌な事や好きな事等を把握し、本人の意向に沿った暮らしになるよう支援している。困難な場合でも仕草や目線等々の表現を頼りに本人本位になるよう検討している。	本人の最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階に関して、具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のフェイスシート等を利用して本人の過去の話を聞くなどして把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声かけや見守りを行い把握に努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合い意見を出し合っています	モニタリングは定期的に行い、全職員でカンファレンスを実施、家族や医療面を考慮し、計画作成者が作成している。また利用者一人ひとりの個人スケジュール表を作り、職員で共有しながら異変等に注意し、現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんな些細なことでも本人のケアについて必要なことがあれば報告しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変わったことがなくても様子を把握してサービスの多様化に努めています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味や特技を生かせる事を増やしていけるように支援します		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしています	利用者や家族の希望を重視し、医療機関を決めているが、利用者の半数が送迎付きの協力医療機関への受診を希望している。毎週訪問看護も実施しており、安心できる医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌を通じて体調管理、行動の変化に対して情報収集して適切な看護や受診ができるように支援します		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族が病院との連絡や病棟での様子、主治医からの話を情報収集できるように支援します		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族が要望を把握してできるように支援します	医療連携により重度化対応の指針を作成し、家族の同意を得て看取り介護を目指しているが、現状では協力医療機関が往診体制が整わず、看取り支援には至っていない。重度化や終末期に際しては、系列の他施設及び医療機関への移行を視野に入れて家族と話し合い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが実践できていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網と避難訓練は年2回実施しています	年に2回の消防署指導の避難訓練を地域住民に参加要請しながら実施している。停電時を想定し、冬季暖房用のストーブも備品として揃え、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いやプライバシー保護についてその場で注意しています	接遇は介護の根幹であり、声掛けや誘導、促しに至る介護者としての行動を振り返りながら点検している。理念等で接遇を絡めて、対人援助の基本を学び直している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の意見を尊重します。難しい時は家族の協力を得ています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースにはできていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から身だしなみやおしゃれができるように家族の協力を得て実施しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に茶碗拭き等を行っています	他のサービス活用を優先し、手間のかかる調理はせずに配食に頼っているが、利用者の好みの品を加えたり、一人ひとりの特性に配慮して提供している。また食後のお手伝いは、積極的にお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の栄養バランスや食事の形態について考慮いたします		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じた口腔ケアを実践しています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄習慣を生かした支援しています	排泄はトイレで行うことを原則とし、時間での誘導や仕草や動き、排泄チェック表も参照しながら、自然な排泄になるよう排泄の支援をしている。またオムツの是非をいつも検討し、布パンツへの転換を積極的に進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人に応じた排便の習慣を生かした支援しています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度が重度な方が多いため難しい	週に3回の入浴日を設定し、利用者が毎週2回は入浴できる様に支援している。重度化の利用者も多く、複数介護員で対応しているが、入浴が作業でなく楽しむお風呂になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を生かして気持ちよく眠れるように支援します		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者に応じた服薬支援を実践しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者を理解して役割や楽しみ事等の支援をしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援については家族へ協力依頼しています	季節ごとの花見や紅葉狩り等の外出を実施しながら、天候に左右されながらも近辺での散歩を行っている。生活習慣である墓参りや、寺社の参拝、温泉や遠出などは家族との協力で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、基本的に施設で管理していますが少額の所持金を持参されて利用者がいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者家族の協力を得て施設の電話を利用しています。職員が代弁する事もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良く過ごせるように生活感を取り入れた飾りや季節の花を飾っています	建物内はまだ新しいままで、清掃も行き届き、快適な空間となっている。また1階には3室の空き室が確保されており、職員との面談や家族との相談に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士がホールや食堂で過ごせるように工夫しています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族より使い慣れた物や好みものや写真を持ってきていただいています。	居室にはトイレが設置されており、プライバシーが確保されている。また自宅にあった家財や小物類が思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気が感じられ、家族の写真も貼られ、ゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内で居室のドアに表札をつけたり工夫して少しでも安全でできるだけ自立した生活を送れるように支援しています		